

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	一般小売店〔精肉〕 （店長）	・新しい商材の動きも良く、客の購買意欲も強くなっているため、先行きは明るい。
		百貨店（営業担当）	・客のファッションに対する感度はかなり高まってきている。したがって、夏物から、季節を先取りする初秋物へ切り替わる時期が昨年より早まる。ただ、直前になってもメーカーの生産体制が整わない懸念がある。
		百貨店（営業担当）	・秋物商戦では、特にヤングの衣料でワンピースなどのトレンドが見え始めているため、販売量の確保が期待できる。
		家電量販店（経営者）	・デジタル放送を大画面で見ることがごく当たり前になっており、テレビへの期待が大きい。また、パソコンでは旧基本ソフトのメーカーサポートが終了したことから、来年発売の新基本ソフトなどが話題になっており、需要復活が期待される。
		その他専門店〔医薬品〕 （営業担当）	・梅雨が長引いて、夏物商品が売れていないにもかかわらず、売上、利益とも極端な落ち込みが見られない。今後も景気は堅調に推移する。
		都市型ホテル（スタッフ）	・夏場の婚礼件数は例年に比べ少ないが、全体の利用客数の増加傾向が続くと判断から、宿泊部門、レストラン部門は増収を見込んでいる。
		通信会社（社員）	・携帯電話の番号ポータビリティが開始され、販売台数が増加する。
		通信会社（役員）	・本年10月から県内テレビ局の地上デジタル放送が開始されるため、視聴者の関心が高まり、ケーブルテレビのデジタル契約の促進が期待できる。
	競輪場（職員）	・7月は場外開催のナイターが5回行われたため、入場者数、売上が伸びなかった。8月はナイター開催が終了し、特別イベントが行われるため、期待が大きい。	
	変わらない	商店街（代表者）	・土・日曜日の売上はかなり良いが、平日の売上確保が今後の課題である。
		百貨店（営業担当）	・客の動きをみると、1、2年前に比べファッションの先取り感覚が強くなっており、晩夏、初秋物の勝負が早まる。
		スーパー（店長）	・9月に競合店の出店があるため、安い商品を求めて客の買い回りが更に広がる。
		スーパー（副店長）	・雨量が多過ぎたことから青果物に悪影響があり、梅雨明けの遅れから夏物商品の売行きにブレーキがかかる。
		コンビニ（経営者）	・来客数は前年の90%であるが、今後もこの水準が続く。
		コンビニ（経営者）	・来客数の微増傾向と客単価の低下傾向が今後も続く。
乗用車販売店（総務担当）		・リコールが発生したことや新型車の発表が当面見られないことなど、明るい材料に乏しい。	
乗用車販売店（経理担当）		・ガソリン価格の高騰が続いており、自動車販売業界には痛手となっている。以前のように、消費の究極が車という時代ではなく、若者を中心に携帯電話やIT家電等の購買が広がっているため、自動車の販売台数の伸長は厳しい。	
乗用車販売店（営業担当）		・7月の状況を見る限り、来場者数と販売量は横ばいで推移する。	
高級レストラン（スタッフ）		・個人旅行や冠婚葬祭での外食需要は伸びているが、法人利用の縮小はまだ下げ止まりが見えない。	
観光型旅館（スタッフ）		・予約から判断すると、好調な状況があと2、3か月続く。	
旅行代理店（従業員）		・個人旅行の需要は底固く推移するが、原油高の先行きがはっきりしないため、今後の法人・団体需要は旅行を控えるか、様子見の傾向となる。	
タクシー運転手		・客からは「ボーナスは前年より若干多くなったが、先行きが不透明なため貯蓄に回し、あまり使わない」という話が聞かれ、相変わらず節約ムードが続く。	
タクシー運転手		・暑い時期はアイドリング時にエンジンストップができず、燃料費の高騰も加わり収益が悪化する。	
テーマパーク（職員）		・グループ、団体の予約数は前年と大きく変わらない。周辺の宿泊施設の予約状況も同様である。	
その他レジャー施設 （職員）		・売上や来客数の大きな変化は見受けられない。	
美容室（経営者）		・同業者の新規開店が多く、競争が激しいため、1店舗当たりの売上はなかなか増えない。	

		住宅販売会社（従業員）	・住宅ローンの金利上昇傾向のなかで、駆け込み需要を期待しているが、商談につながらない。
やや悪くなる		一般小売店〔書籍〕（店長）	・原油価格の高騰や金利高などから、客の買い控えや来客数の減少傾向が続く。
		百貨店（売場主任）	・原油価格の高騰、ローン金利上昇など、若年層の負担増が懸念材料である。
		スーパー（店長）	・長雨が続き、冷夏になると売行きが悪化する。加えて野菜やガソリンの高騰が拍車を掛ける。
		コンビニ（経営者）	・秋以降、近くの大規模公営施設のイベントが昨年よりかなり少なく、来客数に影響が出る。また、近隣の新規住宅の着工予定もあまりなく、工事関係者の需要も厳しくなる。
		一般レストラン（スタッフ）	・8月に大型ショッピングセンターがオープンするため、数か月は影響を受けるが、米国産牛肉の輸入が再開されれば、牛丼チェーンの影響も出てくる。
		スナック（経営者）	・一時にぎわっていた駅前居酒屋でも、来客数の減少が見られる。
		観光型旅館（経営者）	・原油の値上がりや集中豪雨の影響を受け、野菜や米の値上がりなどで仕入れ面が厳しくなる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・予約状況は前年比、前月比ともに低下している。
悪くなる		スーパー（店長）	・大手スーパーが6月末に出店したうえ、8月初めにはもう1店が出店する。12月には3店目の出店が至近距離で予定されており、先行きの環境悪化は明らかである。
		乗用車販売店（経営者）	・日々変化するガソリン価格が購買層の不安をあおっており、加えて低調な購買意欲を刺激するような新型車の発売予定もない。また客の購買を引き出すインパクトのある販売支援策は予算の都合から限度がある。それより、市場全体が景気の回復傾向をまだ実感していないことが大きい。
企業動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	食料品製造業（企画担当）	・新商品投入の効果が期待できる。
		電気機械器具製造業（経理担当）	・秋口からパソコン関係で新製品が動く可能性が若干ある。
		司法書士	・合同会社や小規模の株式会社ではあるが、会社設立の動きが多くなっており、明るさが見える。
	変わらない	繊維工業（経営者）	・店頭での販売状況があまり芳しくないうえに、原料、燃料などの値上げもあって、先行きに不安が残る。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・金利上昇、原油価格上昇等の度合いが気になる状況が続くが、当面は急激な変動はない。
		金融業（融資担当）	・3月決算の大企業の業績は確実に回復している。ただ、ゼロ金利解除と原油高騰の影響は不透明である。
		金融業（融資担当）	・公共工事の縮減と個人消費の伸び悩みが続く。
	やや悪くなる	精密機械器具製造業（経営者）	・同業他社からは受注見通しが例年に比べかなり少ないとの話が多く、各社とも年末に向けて受注活動に力を入れている。
		建設業（経営者）	・公共工事における競争が一段と激しさを増し、低入札価格調査に触れても平気でダンピング価格で受注を繰り返す業者が増えてきた。このため、まともな業者は全く受注できない状況となっており、景気回復はほど遠い。
		輸送業（配車担当）	・8月から燃料費が値上げされるが、この分のコスト吸収は限界に来ている。
		会計事務所（経営者）	・工事関係業界では長梅雨や天候不順による工事の遅れを取り戻すため工期短縮を強いられる結果、コスト高となることが懸念される。さらに原油高が追い打ちをかけてくるため先行きは厳しい。
	悪くなる	建設業（総務担当）	・受注確保優先で採算を度外視している業者もあり、受注競争はますますエスカレートし、改善の見通しは立たない。
	雇用関連	良くなる	-
やや良くなる		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・8、9月の企業の求人広告件数が増加傾向にある。
		職業安定所（職員）	・月間有効求職者数が減少傾向にあり、就職件数は前年に比べ5か月連続で増加している。
変わらない		人材派遣会社（社員）	・低いスキルの登録者を派遣すれば、クライアントからの信用を失うことになり、今後も厳しい状態が続く。
		人材派遣会社（社員）	・登録者数はここ数か月ほぼ横ばいであるが、登録者のスキルは低下気味で、企業は派遣にやや慎重な姿勢を見せている。

	求人情報誌製作会社 (編集者)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業種を問わず、全体的に求職者からの応募数が少なくなっている。また、今まで継続的に求人を行っていた企業でも掲載を控える動きがあり、求人への意欲が低下している。</li> <li>・求人の動きは活発であるが、相変わらず非正規型が半数を占めており、景気の行方は不透明である。</li> </ul>
	職業安定所(職員)	
やや悪くなる	-	-
悪くなる	-	-